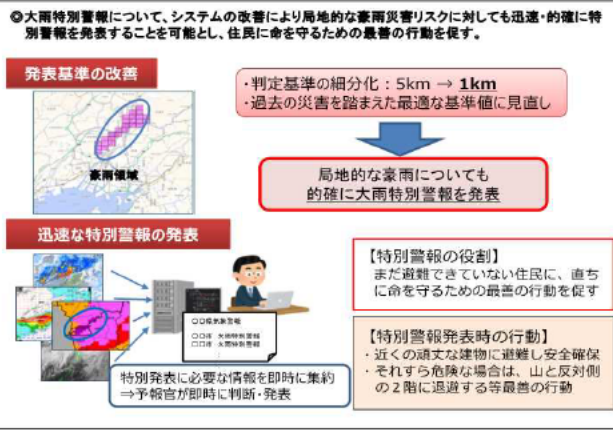




令和3年の気象庁の取組紹介

線状降水帯による豪雨に対する改善

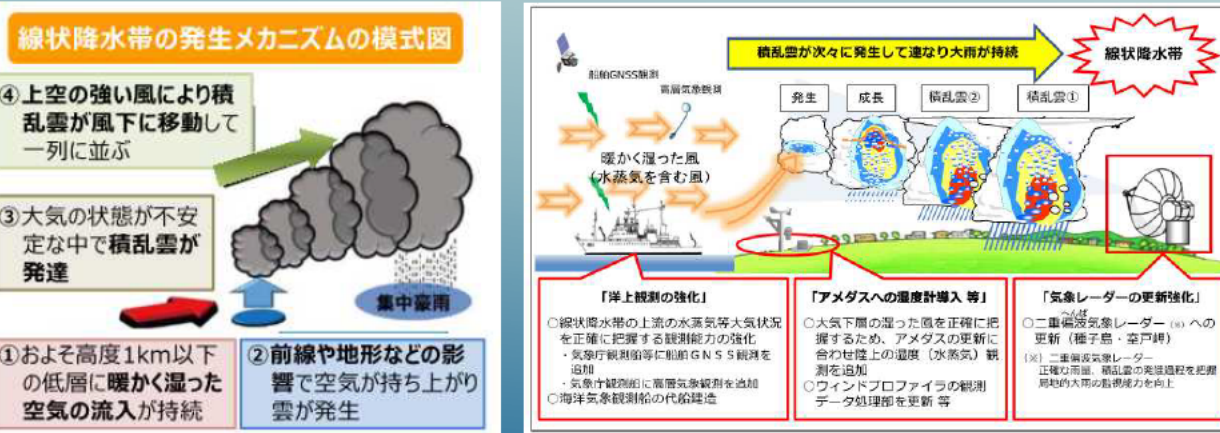
局地的豪雨に対応した大雨特別警報の改善



交通政策審議会気象分科会提言「2030年の科学技術を見据えた気象業務の在り方」に基づき、線状降水帯の予測精度向上の取組を順次進めており、令和2年7月豪雨を受け、これらの取組を加速させるとともに、予測技術の精度を踏まえた線状降水帯による集中豪雨に対する情報を段階的に提供を目指し、線状降水帯の予測精度向上をはじめとする防災気象情報の高度化を推進する。

(令和3年は、線状降水帯となる可能性のある降水域を検知し、気象情報で注意喚起予定)

線状降水帯の予測精度向上のための気象観測・監視の強化



線状降水帯の予測精度向上に向けた課題

- ① 水蒸気の流入を正確に捉える（特に海上）
…水蒸気の鉛直構造や流入量が正確には分かっていない。
- ② 数値予報モデルの性能を高める（線状降水帯の構造・発生・持続）
…個々の積乱雲の発生等を予測できないため、いつどこで線状降水帯による大雨が発生し、どのくらいの期間継続するのか、事前には分からない。
- ③ 線状降水帯の発生確率にかかる情報を提供する
…予測技術を踏まえた線状降水帯による大雨の危険性の呼びかけができていない。

情報提供の改善に向けた取組

予報官コメント⇒「気象台からのコメント」へ

現場の予報官等が、警報や気象情報等をより効果的に活用いただけるように最新の状況等を簡潔に解説するコメントを気象庁HPに掲載

特定のユーザー向けシステムで掲載
(防災情報提供システムなど)

気象庁HPで掲載



記録的短時間大雨情報の改善

これまで

大雨警報を発表中に、記録的短時間大雨情報の基準に到達したときに発表。

災害発生と結びつきが強い情報に改善

改善後

危険度分布で「非常に危険」(警戒レベル4相当)以上が出現し、且つ記録的短時間大雨情報の基準に到達したときのみ発表する。

彦根地方気象台の取組

感染症拡大時の防災支援体制や気象観測体制を強化。

感染症拡大時の防災支援体制を強化。

- ・ ZOOMなどを用いて、関係機関への解説支援を実施
- ・ ZOOMなどを用いて、首長や市町担当者との訪問・打合せを実施

危機感を伝える取組_過去災害事例の更なる追加(平成18年豪雪)

平成17年(2005年)～平成18年(2006年) 平成18年豪雪 [PDF]: 滋賀県などで大雪

平成17年12月から平成18年1月上旬にかけて、非常に強い寒気が日本付近に南下し、強い冬型の気圧配置が断続的に現れた。この影響で北部では積雪差日合計が極値を更新する記録的な大雪となる日があった※。この大雪により、除雪作業時の事故による人的被害、雪の重みによる住家やビニールハウス等への被害、道路の通行止や鉄道の運休、遅延、農業施設や農作物への被害、停電などが多数発生した。

※12月22日 米原の積雪差日合計 54センチ(極値順位1位)
12月13日 柳ヶ瀬の積雪差日合計 71センチ(極値順位2位)

知識を伝える取組_普及啓発(児童向け)

- ・ e-彦根地方気象台「あなたも町の予報官」を公開